

## 令和4年度実証結果及び今後の検討事項

---

港湾局 サイバーポート推進室  
令和5年5月

# ①NACCS機能改善

- NACCS機能改善により実装したバースウィンドウ機能を使用することで、バース利用状況確認のための作業負担の軽減、連絡回数の低減が可能となる。

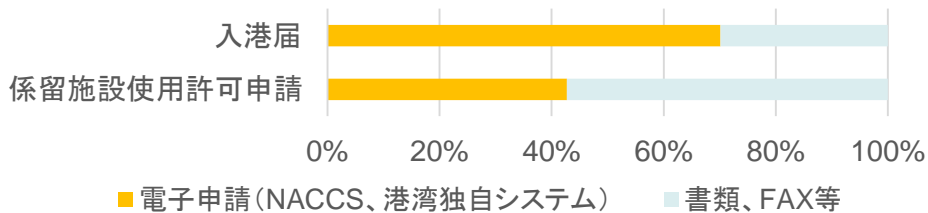
## 入出港関連手続の電子申請の現況

### ■ 業務の流れ

- 係留施設の空き状況を電話等で確認後、申請を実施
- 入港、シフト後に実績報告

事前調整 → 申請 / 許可 → 入港、シフト → 実績報告

### ■ 主な入出港関連手続の現状の電子化状況 (R3d重要港湾以上を対象に調査)

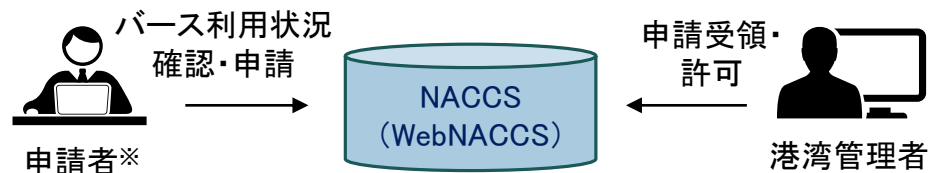


→ NACCSはあるものの、各申請の電子申請率は低い状況

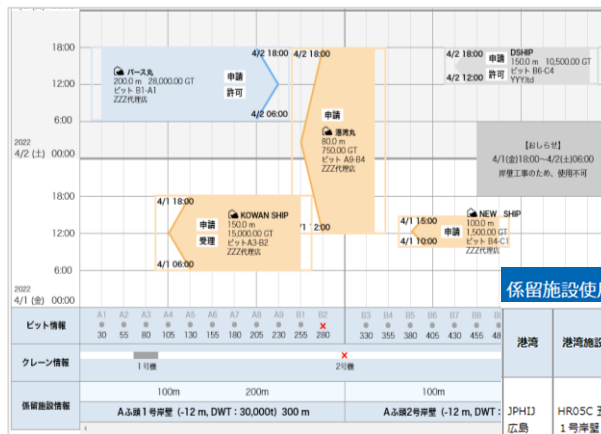
### ■ 現状の課題

- バースの空き状況確認等の **事前調整業務を電話や対面で実施**しており、確認に時間や手間がかかる。
- 本申請だけNACCSで行うメリットがない。**
- バース会議を毎日開催しており、**開催準備等が必要。**

## NACCS機能改善により目指す姿



※WebNACCSでバースウィンドウを確認しながら、netNACCSから申請を行う、などの併用も可能



### 係留施設許可申請一覧画面

係留施設使用許可申請一覧 (WCS)

| 港湾      | 港湾施設名称         | ビット   | 岸壁の基点からの距離 (m) | 着岸側 | 着岸日時             | 離岸日時             | 状態     |
|---------|----------------|-------|----------------|-----|------------------|------------------|--------|
| JPHI 広島 | HROSC 五日市 1号岸壁 | 3-7   | 61             | 左舷  | 2023/01/11 12:00 | 2023/01/11 16:00 | 決定     |
| JPHI 広島 | HROSC 五日市 1号岸壁 | 16-11 | 253            | 右舷  | 2023/01/10 08:00 | 2023/01/10 20:00 | 申請 (S) |

### バースウィンドウイメージ図

- バースウィンドウ機能により、**申請状況が可視化されオンラインでもバース調整が可能になる。**
- NACCSで他申請者の申請状況を確認・調整が可能になる。**

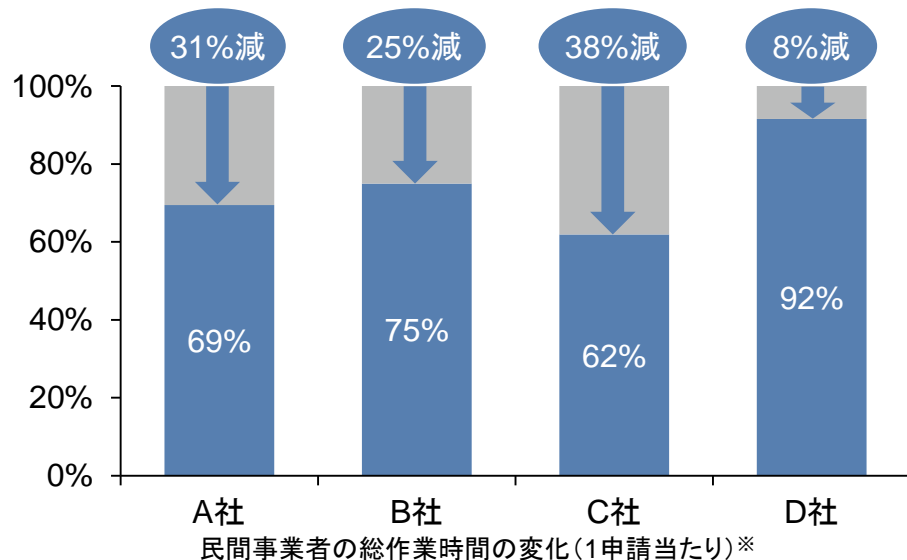
- 4港において、令和5年1～2月にNACCS機能改修及びサイバーポート(調査・統計)構築に係る実証を実施。
- 構築したシステムを参加者に利用していただき、作業時間調査、現地ヒアリング・アンケートを行った。

| 項目      | 入出港関連手続の電子化<br>NACCS機能改善   | 調査・統計業務の電子化・効率化<br>サイバーポート(調査・統計)構築   |
|---------|--|---|
| 実証参加者   | 港湾管理者:4者<br>新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港<br><br>事業者:14者<br>船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等   | 港湾管理者:4者<br>新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港<br><br>事業者:49者<br>船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等  |
| 実証実施期間  | 令和5年1月16日～令和5年2月17日  | 令和5年1月5日～令和5年2月28日<br>(調査対象:令和5年1月分甲種港湾調査)  |
| 参加者との調整 | <ul style="list-style-type: none"> <li>港湾管理者に対象バースを選定いただき、当該バースを利用する事業者に対して、実証の協力依頼を実施</li> <li>実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務それぞれの作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>4港の全事業者(報告義務者)に対して実証の協力依頼を実施</li> <li>実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務の作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施</li> </ul> |
| 実証内容    | 事業者<br>バース利用状況の確認<br><u>新規申請・訂正、申請一覧の照会</u><br><br>港湾管理者<br>バース利用状況の確認<br>申請確認・許可  | 事業者<br>データ連携<br>調査票作成(画面入力、 <u>NACCSデータ連携</u> 、独自帳票の変換)・提出、疑義照会<br><br>港湾管理者<br>調査票確認・取込(各種様式、AI-OCR)・作成(画面入力)、疑義照会、集計表作成・提出              |

- NACCS機能改善により、入出港関連手続の業務効率化の効果が確認された。
- 実装した機能に対して、実証参加者から一定程度評価いただいている一方、改善すべき課題等の意見もいただいた。

## 機能改善による業務効率化・期待される効果

### 1 1申請当たりの総作業時間最大38%の削減を実現



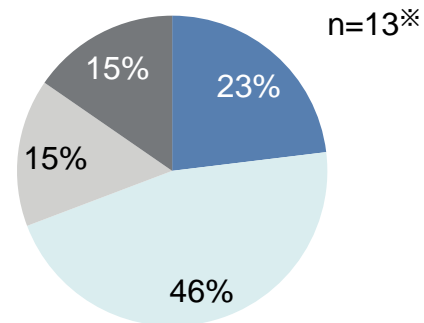
※ 実証期間中、対象バースに申請を行ったのは8者で、うち4者は作業時間が増加した。その主な理由として、実証期間中は日常的に使用しているnetNACCSではなく、WebNACCSから申請を行ったことが挙げられる。

### 2 土日祝日・夜間等、港湾管理者が不在の場合でも、バースウィンドウ上で他者の申請状況を確認可能

### 3 バースウィンドウ機能・過去申請の流用機能により、全申請項目の入力作業自動化を実現する予定

## 実証参加者の声

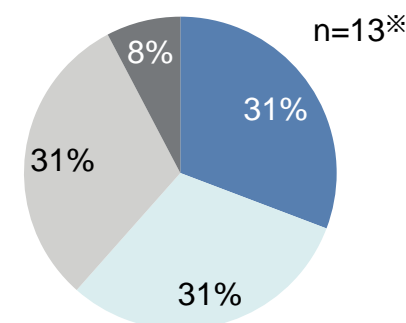
バースウィンドウを他申請者に勧めたいと思うか



■ そう思う      ■ どちらかといえばそう思わない  
■ どちらかといえばそう思う      ■ そう思わない

※実証参加事業者14者のうち1者は、実証期間中に利用実績がなかったため、対象外とした。

バースウィンドウはわかりやすいか



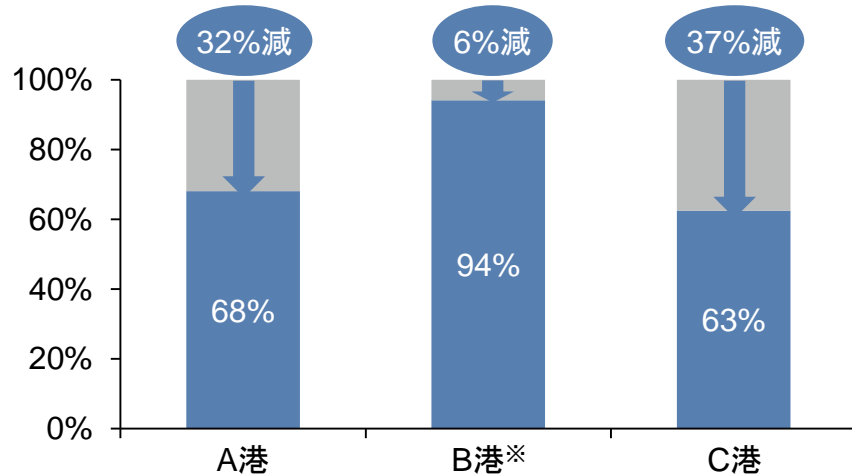
## バースウィンドウ利用者の声

- 一目でバース利用状況が確認でき、空きバースが把握できるので使用しやすいと感じた。
- バースウィンドウから過去の係留申請情報を流用できるのは便利である。
- × 現状のバースウィンドウでは、早い者勝ちで係留申請の許可が得られるが、実際の申請時は他社との調整が必要である。

- バース利用状況の可視化やアラート機能の追加等により、1申請当たりの総作業時間の削減が確認された。
- 一方、NACCS外で申請された内容をバースウィンドウに反映する必要があり、トータルとして業務削減効果があるのか懸念が示された。

## 機能改善による業務効率化・期待される効果

### 1 1申請当たりの総作業時間最大37%の削減を実現



対象バースに申請があった港湾管理者の総作業時間の変化(1申請当たり)

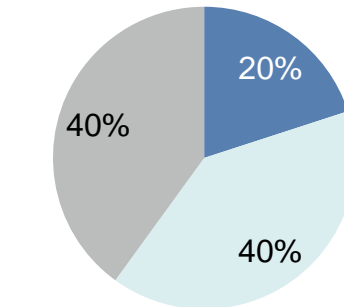
※ 現状のバース利用調整において、特定の民間事業者が中心となって取りまとめており、港湾管理者の業務フローにほとんど変化がなかった。

2 DWTの超過判定等、申請項目の一部をシステムが自動チェックするため、**申請内容の確認しやすさが向上**

3 土日祝日・夜間において、申請者がバースウィンドウ上でバース利用状況を確認できるため、**問い合わせ対応が不要に**

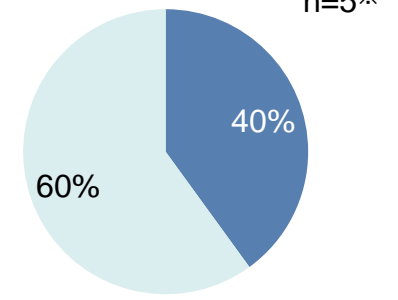
## 実証参加者の声

バースウィンドウを他港湾管理者に勧めたいと思うか  
n=5※



■ そう思う      ■ どちらかといえばそう思わない  
■ どちらかといえばそう思う      ■ そう思わない

バースウィンドウはわかりやすいか  
n=5※



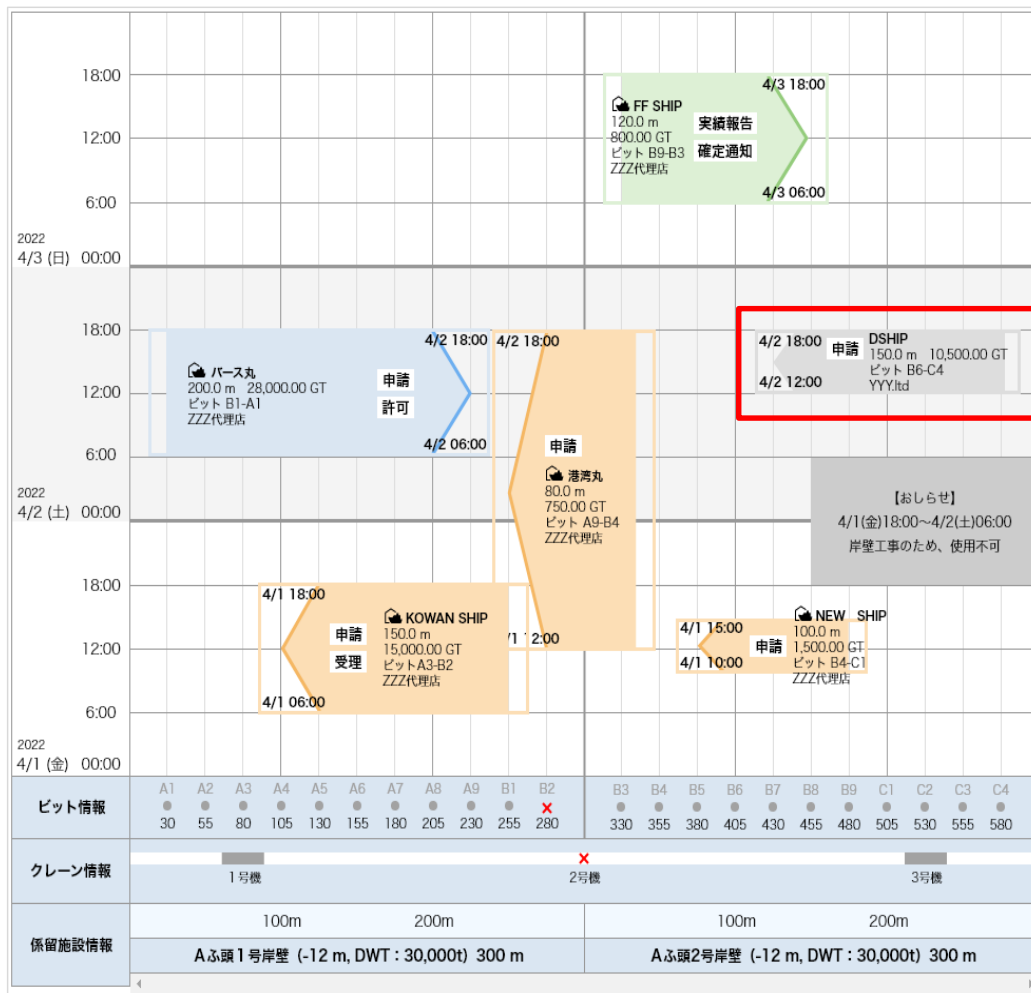
※ 特定の港湾において、担当者複数名から回答があったため。

## バースウィンドウ利用者の声

- バースウィンドウ機能は、従来の紙での管理方法と比較して**バースの利用状況が確認しやすい**ので便利である。
- DWTが超過したか否かをチェックするアラート機能が申請内容確認時に活用できた。
- × 紙等で申請された場合、**バースウィンドウに反映するために、手入力作業が必要になる。**

# 実証で得られた意見(許可前の情報の表示)

- 実証において、「バースウィンドウに他社の許可前の申請情報は表示されないため、現状業務における申請前の事前調整はバースウィンドウで代替できない。」という意見が多数挙げられた。
- これを踏まえ、事業者用画面にも他社の許可前の申請情報を表示し、事前にバース利用の重複有無を確認できるよう機能改修を行う。



港湾管理者による  
許可前の他社の  
申請情報を公開

## ①申請呼出機能

入港情報

入港コード\* JPTYO 一覧参照 TOKYO - TOKYO-----E

港域入港予定年月日時刻\* 20220101 1000

移動前停泊場所コード 一覧参照

移動開始予定年月日時刻

移動後停泊場所コード 一覧参照

船岸(予定)場所コード(入港時)\* AA01C 一覧参照 お台場ライナー埠頭A Aバース

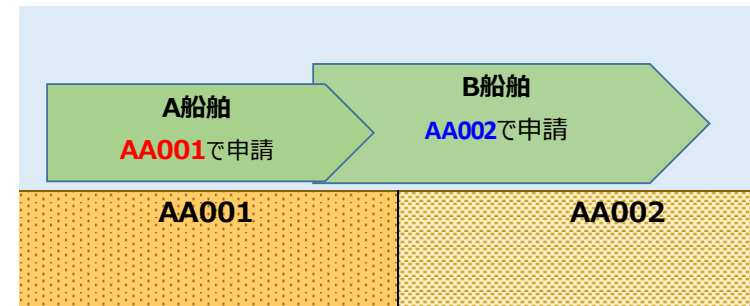
船岸(予定)年月日時刻(入港時)\* 20220101 1000

船岸(予定)年月日時刻(出港時)\* 20220102 1100

バースウィンドウと連携された項目は呼出対象外とし、それ以外の項目を呼出元の申請情報から設定する。

## ②バース跨り申請のバースウィンドウ表示

- ✓ 同一の岸壁に対して、跨りのバースコードおよび単独のバースコードが登録されている場合に、それぞれに申請された内容をバースウィンドウ画面で表示可能とする。



## ③サイバーポート(港湾インフラ分野)との地図連携

- ✓ 岸壁(バースコード)を選択し、バースウィンドウへ遷移するボタンをクリックすることで、バースウィンドウへ遷移する。

## ④バースウィンドウ表示機能拡張・バースウィンドウの拡大縮小

- ✓ 日時表示順(昇順/降順)、係留施設表示位置(上部/下部)について、画面操作による変更を可能とする。本機能により、利用者がバースの利用をイメージしやすい表示を可能とする。
- ✓ バースウィンドウ画面について、Ctrl+スクロール操作による拡大縮小を実現する。

## ⑤手入力書類作成における流用機能

- ✓ 港湾管理者が紙申請をNACCSに手入力する際に、過去の申請を引用できるようにする。

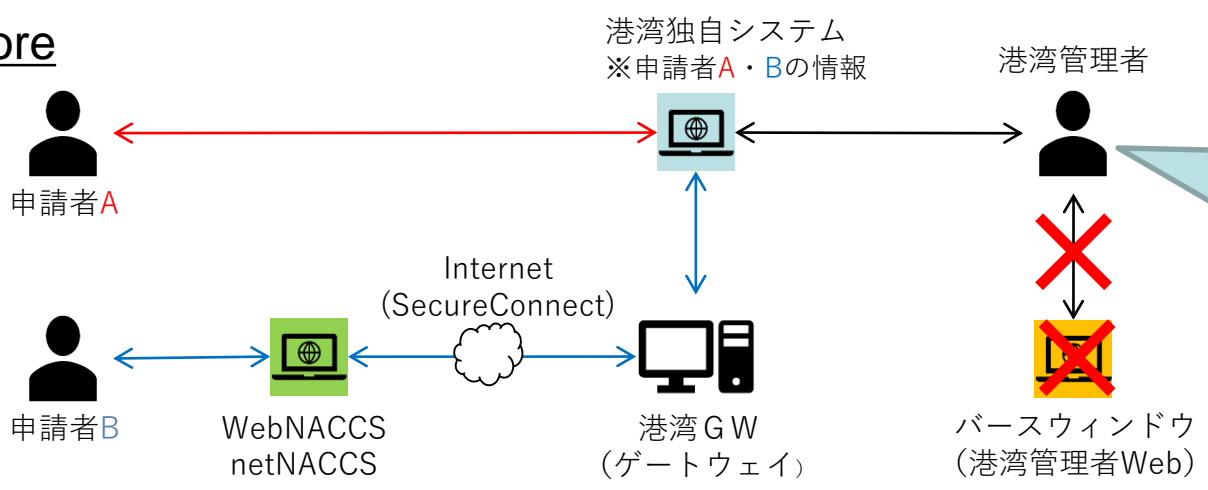


- 以下のご意見も踏まえ、機能改善を進める。

| 追加予定機能                        | 事業者   |  | 港湾管理者     |  |
|-------------------------------|---|--|-----------|--|
|                               | 有効性に関する意見   | 追加要望   | 有効性に関する意見 | 追加要望   |
| ①申請呼出機能                       | ✓ 現状の改修予定の内容で十分に有効に思える。   | ✓ 特になし   | —         | —  |
| ②バース跨り申請のバースウィンドウ表示           | ✓ バース跨りは発生することもあるので、岸壁をまたがる形で表示されたほうがよい。  | ✓ 特になし   | ✓ 特になし    | ✓ 特になし   |
| ③サイバーポート（港湾インフラ分野）との地図連携      | ✓ 視覚的にも見やすく、港湾の周辺情報に疎い人であっても地図上からであればわかりやすいと思う。   | ✓ <u>給水口と使用不可等に係る情報も表示してほしい。</u>   | —         | —  |
| ④バースウィンドウ表示機能拡張・バースウィンドウの拡大縮小 | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 内航、外航に必要な時間軸の粒度が異なるため、有効であると考える。</li> <li>✓ 複数バースを表示した上で、縮小表示して俯瞰してみることで、港湾管理事務所から展開される船席の指定図に代替できると思う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 長期間の表示は時刻単位ではなく、<u>日、週、月単位への切り替えなど、スケジュール表と同じような表示ができる</u>とよい。</li> <li>✓ <u>すべての岸壁が一面で見れるようになる</u>とよい。バース会議に参加しているときに港全体の状況が確認しやすくなる。</li> </ul> | ✓ 特になし    | ✓ イベントの際に各岸壁や接岸している船舶の情報を説明することがあるため、 <u>表示項目を選択</u> できるようにしてほしい。        |
| ⑤手入力書類作成における流用機能              | —   | —  | ✓ 特になし    | ✓ <u>係留申請だけでなく使用届もバースウィンドウに反映してもらえれば、係留申請の手入力によるバースウィンドウへの反映を省略</u> できる。 |

- 現状、港湾独自システムを有している港湾管理者は、港湾管理者Webが使用不可となっており、港湾管理者Webに構築されるバースウィンドウを利用できない。
- そのため、港湾独自システムを有する場合でも港湾管理者Webを使用可能とするとともに、港湾独自システムへの申請情報もバースウィンドウに反映されるように改修を行う。

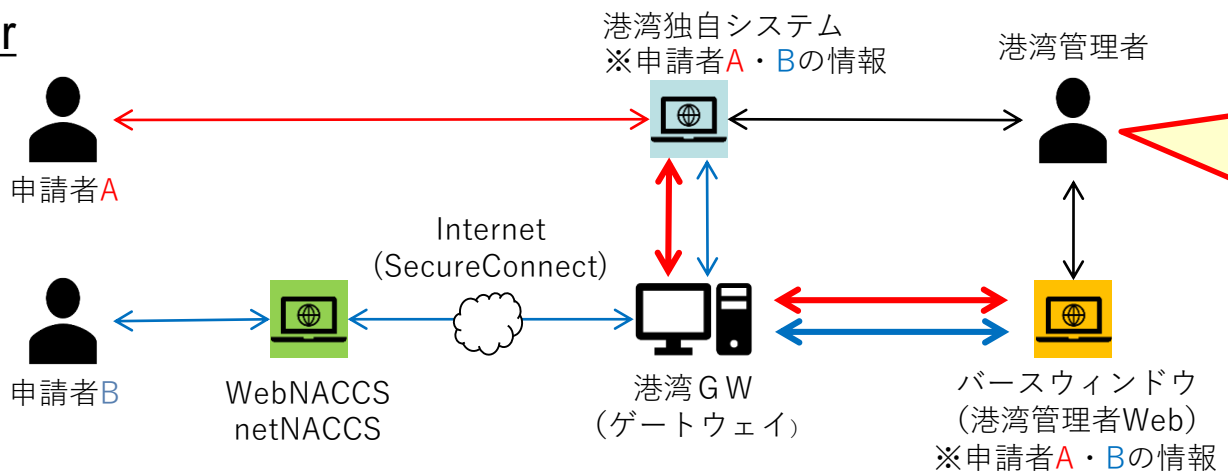
## before



港湾管理者Web：港湾管理者が利用するNACCS  
WebNACCS/netNACCS：民間事業者が利用するNACCS

### バースウィンドウ利用不可

## after

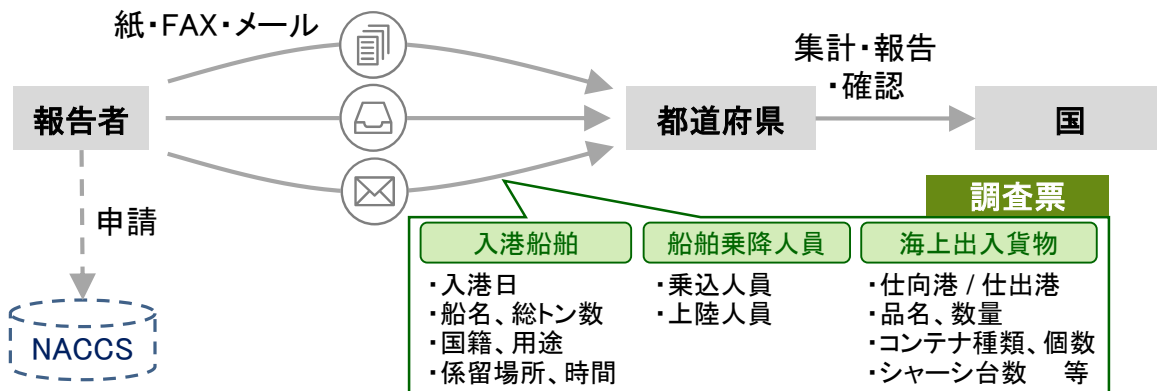


### 港湾独自システムとバースウィンドウの併用も可能

## ②サイバーポート(調査・統計)

- 港湾調査に関する一連の作業を一貫してシステム化するほか、報告者はNACCSデータ連携による調査票作成等を可能とし、都道府県は調査票の一元的な管理や自動集計・チェックを可能とする。

## 港湾調査の現状業務と課題



報告者

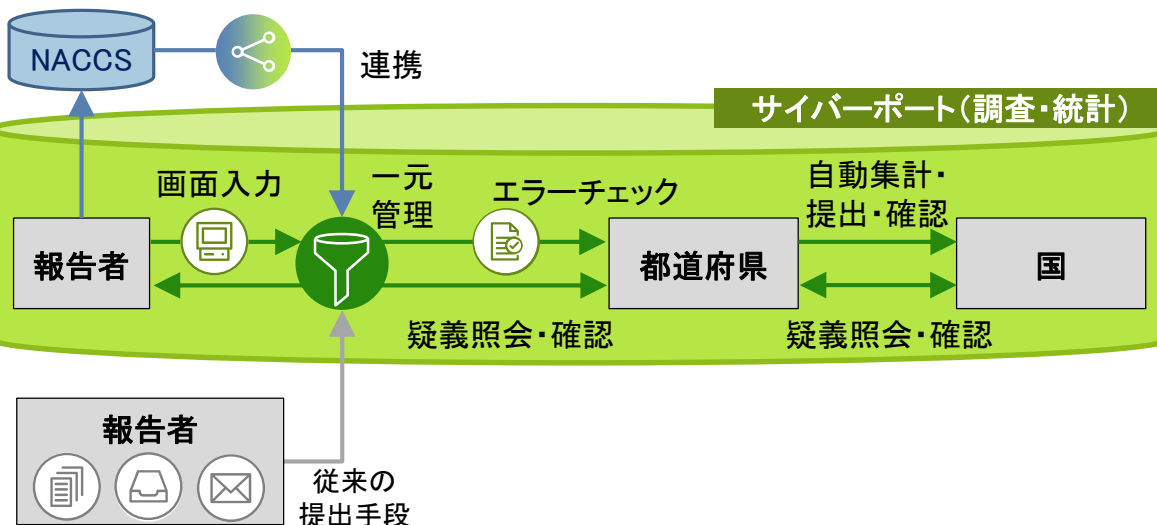
- ① NACCS等に同一内容を入力。
- ② 報告にあたり、各社から情報収集が必要。
- ③ 疑義照会連絡がメール・電話でくるため、指摘内容が不明確で複数回やり取りが発生。

都道府県

- ① 調査票提出方法/様式が多岐に渡り、管理が困難。
- ② 調査票の確認や、集計作業・チェックが非常に手間。
- ③ 調査票情報が不足しているため、情報を付記。

## 港湾調査※の電子化の目指す姿

### 目指す姿



NACCSデータを活用可能とするとともに、入力支援機能で、コードを探す手間を削減し、作業時間削減・正確性向上を同時に達成。



疑義照会の指摘箇所・内容が明確化され、都道府県と報告者のやりとりを最小限に。



様々な調査票の様式や提出方法に対し、取込機能等により一元管理することが可能。



調査票提出時に自動チェックし、入力漏れ防止/確認作業省力化。また集計作業も自動で実施。





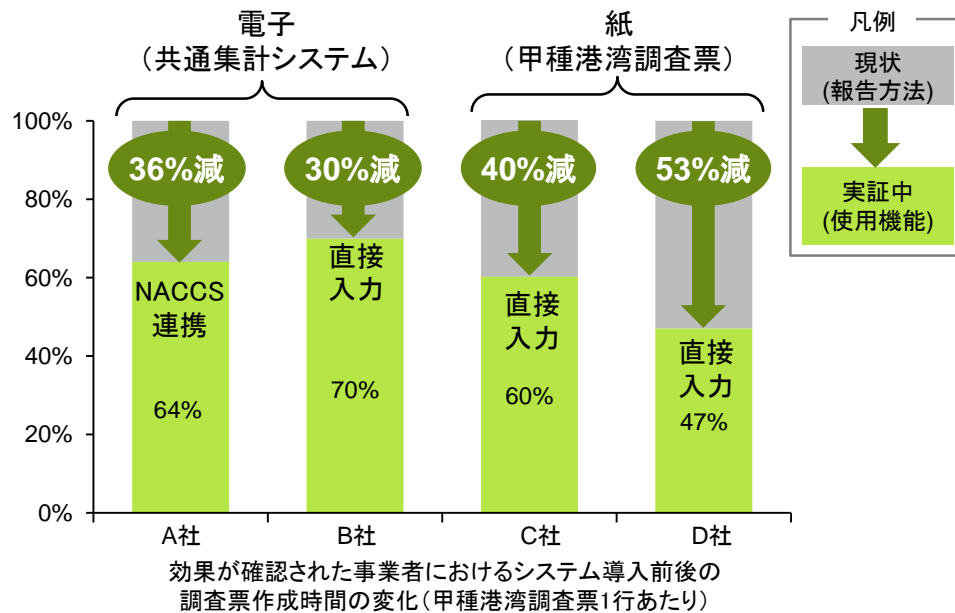
- 4港において、令和5年1～2月にNACCS機能改修及びサイバーポート(調査・統計)構築に係る実証を実施。
- 構築したシステムを参加者に利用していただき、作業時間調査、現地ヒアリング・アンケートを行った。

| 項目      | 入出港関連手続の電子化<br>NACCS機能改善   | 調査・統計業務の電子化・効率化<br>サイバーポート(調査・統計)構築   |
|---------|--|---|
| 実証参加者   | 港湾管理者:4者<br>新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港<br><br>事業者:14者<br>船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等   | 港湾管理者:4者<br>新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港<br><br>事業者:49者<br>船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等  |
| 実証実施期間  | 令和5年1月16日～令和5年2月17日  | 令和5年1月5日～令和5年2月28日<br>(調査対象:令和5年1月分甲種港湾調査)  |
| 参加者との調整 | <ul style="list-style-type: none"> <li>港湾管理者に対象バースを選定いただき、当該バースを利用する事業者に対して、実証の協力依頼を実施</li> <li>実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務それぞれの作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>4港の全事業者(報告義務者)に対して実証の協力依頼を実施</li> <li>実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務の作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施</li> </ul> |
| 実証内容    | 事業者<br>バース利用状況の確認<br><u>新規申請・訂正、申請一覧の照会</u><br><br>港湾管理者<br>バース利用状況の確認<br>申請確認・許可  | 事業者<br>データ連携<br>調査票作成(画面入力、 <u>NACCSデータ連携</u> 、独自帳票の変換)・提出、疑義照会<br><br>港湾管理者<br>調査票確認・取込(各種様式、AI-OCR)・作成(画面入力)、疑義照会、集計表作成・提出              |

- 効果が確認された事業者において調査票作成時間が最大約53%削減され、書類発生量も100%削減された。
- 約9割の参加者がサイバーポート(調査・統計)が操作しやすいと回答し、システムを他事業者に勧めたいと回答した参加者は約6割となった。

## システム導入による業務効率化・期待される効果

### 1 調査票作成時間が**最大約53%の削減**

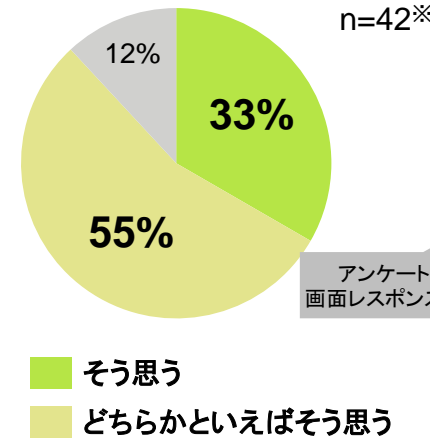


### 2 NACCS連携機能を使用し、コンテナ船の報告に係る**入力項目のうち約9割がシステムにより自動入力**

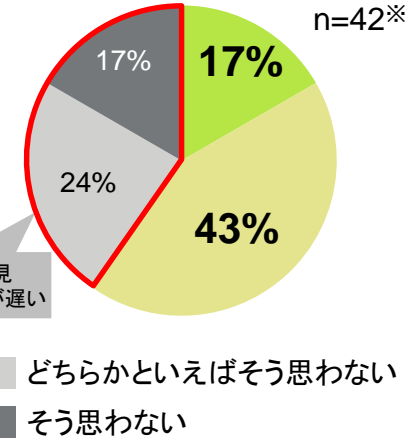
### 3 これまで紙の調査票を提出していた報告者においては、**書類発生量を100%削減**

## 実証参加者の声

システムは操作しやすいか



システムを他報告者に勧めたいと思うか



アンケート意見  
画面レスポンスが遅い

※実証参加者49者の内アンケートに回答いただいた事業者

## サイバーポート(調査・統計)利用者の声

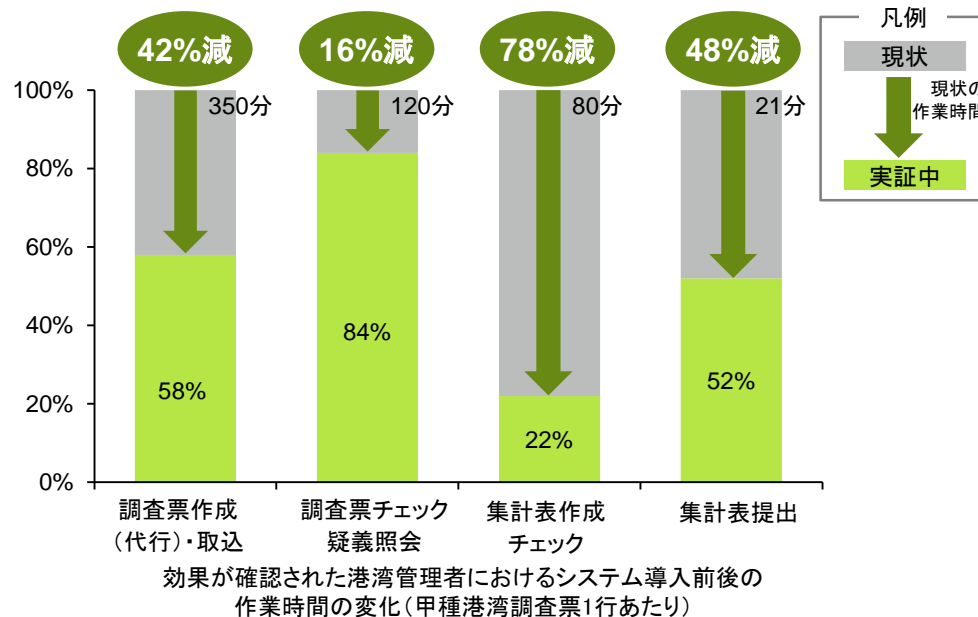
- NACCSデータ連携を使用することで、**手入力が不要となり報告の抜け漏れを防ぐこともできた。**
- 船舶に係る情報が最初から登録されているため、**電子調査票と比較して、コードを検索する手間が削減された。**
- **調査票の郵送にかかる手間や費用が不要になることに加え、印刷した資料の保管スペースも不要になった。**



- 効果が確認された港湾管理者において、作業時間が最大約78%削減され、書類発生量も70%削減された。
- 全ての参加者がサイバーポート(調査・統計)が操作しやすいと回答し、半数以上がシステムを他港湾管理者に勧めたいと回答した。

## システム導入による業務効率化・期待される効果

- 1 調査票の受領から集計表の提出までの**作業時間を最大約78%削減**

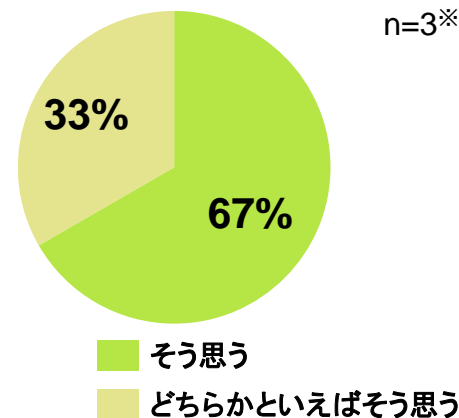


- 2 半数以上の港湾管理者が報告者から提出される**調査票のミスが削減された**と実感

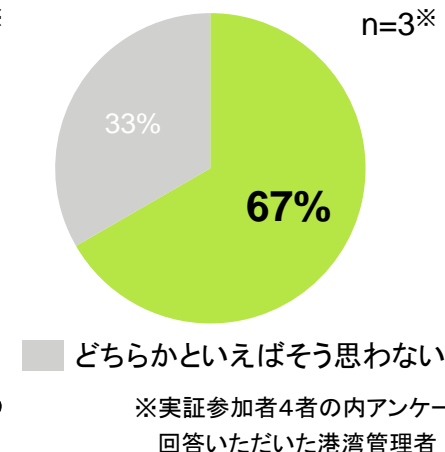
- 3 調査票をサイバーポート(調査・統計)上で管理できるため、**都道府県によっては、発生する書類を70%削減**

## 実証参加者の声

システムは操作しやすいか



システムを他報告者に勧めたいと思うか



## サイバーポート(調査・統計)利用者の声

- 報告者が調査票を作成する際に選択入力できるため、**記入間違いのミスが削減された**。
- コードについても自動入力されるため、**従前実施していたコード付番が不要となり、負荷が軽減された**。
- システム上で調査票データを管理することができるため、**紙保管の必要性がなくなった**。

- 令和5年度は、実証で参加者から頂いたご意見等を踏まえ、以下の対応を検討する予定。

| 機能分類  |              | 実証で得られた課題・意見   | 対応策   |
|-------|--------------|--|---|
| 調査票作成 | 品名の自動変換      | <ul style="list-style-type: none"> <li>品名の入力方法として、HSコードから港湾調査の品種コードへの自動変換があったが、入力したい品名に該当するHSコードが見つからなかった。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>総合政策局が作成している港湾調査に用いる品目分類表(HSコードよりも細かい分類表)からの自動変換を検討。</li> </ul>                                  |
|       | 船舶マスタの自動入力   | <ul style="list-style-type: none"> <li>船名を選択した際に、航路名と用途も、総トン数と国籍と同様に自動入力されると良い。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>船舶マスタに航路名と用途を加え、船名を選択した際、可能な範囲で自動入力することを検討。</li> </ul>   |
|       | 過去の調査票情報の再利用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月同じ船舶が決まった岸壁を利用するため、船舶の航路や岸壁などをあらかじめ固定する機能があるとよい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>過去に作成した調査票を再利用できる機能を実装することで対応することを検討。</li> </ul>   |
|       | NACCSデータ連携   | <ul style="list-style-type: none"> <li>入港前統一申請では予定で申請されているため、離着岸日時を修正する必要があった。</li> <li>貨物情報について、正しく連携されない場合があった。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>離着岸日時の実績値について、係留施設使用許可申請において実績報告が可能となっている旨の周知を検討。</li> <li>正しく連携されなかった原因について分析し対応を検討。</li> </ul> |
|       | 独自帳票の変換      | <ul style="list-style-type: none"> <li>サイバーポート外で変換用ツールを使用して独自帳票からサイバーポート取込用帳票に変換するのは管理が複雑になるため、変換機能もサイバーポート内に実装すべき。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>サイバーポート内で独自帳票変換機能を利用できるように検討。</li> </ul>   |
| 疑義照会  |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>現状疑義照会については、毎朝定時にメール連絡がくる仕様だが、疑義照会発生直後に連絡が来た方がよい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>疑義照会発生直後に登録したアドレスにメールするように検討。</li> </ul>   |
| その他   | マニュアル・動画の作成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>最終船卸港/最初船積港と仕向港/仕出港それぞれにどのような内容を入力すべきか分からなかった。</li> <li>台数又はトン数の入力項目について、どちらを入力すべきか、わからなかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>用語や入力方法に係るマニュアル・動画を作成しサイバーポート上で閲覧できるように検討。</li> </ul>  |
|       | 画面レスポンスの改善   | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査票作成画面を開くのに20秒ほどかかり画面レスポンスが悪く感じた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実証環境のため画面レスポンスが遅くなったが、本格運用時には改善できるよう検討</li> </ul>  |

※実証を行った際の主な意見を抽出したもの。他にも多くの意見があり個別に対応を検討。

- 令和5年度は、実証で参加者から頂いたご意見等を踏まえ、以下の対応を検討する予定。

| 機能分類                     |                  | 実証で得られた課題・意見  | 対応策   |
|--------------------------|------------------|---|---|
| 調査票の<br>確認・<br>取込・<br>作成 | 報告漏船舶の<br>自動チェック | ✓ 従前、調査票と入出港届との突合チェックを行い、報告漏の船舶が無い手動でチェックしていたが、サイバーポート上で自動で突合チェックをしてほしい。  | ✓ 港湾管理者が所有する入港船舶に係る情報等を特定の様式に変換し、提出された調査票と突合することにより <b>報告漏船舶の有無を自動チェックする機能</b> を検討。   |
|                          | 調査票の<br>ダウンロード   | ✓ 提出された調査票情報を一覧で確認するため、調査月内のすべての報告者のデータを一括してダウンロードする機能がほしい。   | ✓ 調査月内の全ての報告者の調査票情報を一覧化した様式でダウンロードできる機能を検討。   |
|                          | AI-OCR           | ✓ AI-OCRでサイバーポートに取込む際に変換処理等の対応事項が多いことに加え、読み取り精度が低い場合があった。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ AI-OCRでの取込について変換処理が少なくなるように検討。</li> <li>✓ 読み取り精度については、AIが学習することにより向上していく想定。</li> </ul> |
|                          | 全国共通<br>船舶マスタの整備 | ✓ 船名に関して、報告者によって表記に揺れがあり、サイバーポートに登録された名称と完全一致しない場合は取込みの際にエラーとなる。  | ✓ <b>全国共通の船舶マスタの構築</b> を検討。   |
|                          | 港湾管理者の<br>調査票編集  | ✓ 明らかかつ軽微な誤りや、報告義務者では把握していない情報は、港湾管理者が修正できた方がスムーズである。   | ✓ 調査票情報の改竄に繋がらないように、 <b>変更履歴を残した上で港湾管理者の変更を可能</b> とするよう検討。(提出後は相手から回答があるまで編集不可の仕様となる)   |
| その他                      | FAQ・操作動画<br>の作成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ よくあるFAQを掲載していただけるとありがたい。</li> <li>✓ 操作マニュアルのみではシステムを使うことは難しいので操作動画を見ながらシステムを利用できると良い。</li> </ul> | ✓ FAQや操作動画について作成しサイバーポート上で閲覧できるように検討。   |
|                          | 試験運用期間<br>の設定    | ✓ 実際に操作してみなければ不安が残るため、本格運用に先立って、一定期間試行的に操作できる期間を設けてほしい。   | ✓ 本格運用前に試験運用期間を設けることを検討。  |

※実証を行った際の主な意見を抽出したもの。他にも多くの意見があり個別に対応を検討。

## 船舶マスタとは

- システムに予め登録しておく船舶に係る情報で、船名、総トン数、国籍等の項目がある。
- 現状、同様の船舶でも事業者によって異なる名称で報告されている場合があるが、全国共通の船舶マスタを整備することにより統一する。
- 全国共通の船舶マスタ構築にあたり、今後利用者に対して各種情報収集を行う想定。



The screenshot shows the '船舶情報' (Vessel Information) form in the Cyber Port system. The form is for a vessel named 'コウキナンパーエイト' (Koukinanpa-eito) with a call sign '004294' and a gross tonnage of 300. The nationality is set to 'JP:日本'. The form includes a '未報告' (Not Reported) status and a '新潟港' (Niigata Port) location. The form is part of a larger system with navigation tabs like 'TOP', '調査票' (Survey Form), 'データ取込' (Data Import), 'ダウンロード' (Download), and '設定' (Settings). The form has a '保存' (Save) button and a 'キャンセル' (Cancel) button. The form is currently in a '調査票' (Survey Form) view.

実証中の調査票作成画面の一部  
※実証中のため今後変更の可能性あり

